

図2. 1973年根室半島沖地震と2003年十勝沖地震の震央分布図 ( $M \geq 4.0$ )  
震源はそれぞれ本震発生後約2週間以内に発生したもの。「千島海溝沿いの地震活動の長期評価」による想定震源域(実線領域, 西から十勝沖, 根室沖, 色丹島沖の想定震源域)と, 再決定した震源から求めた余震域(茶の破線領域)を示す。地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500, 米国地質調査所のGTOPO30を利用。

### 3. 平成15年(2003年)十勝沖地震( $M8.0$ )との比較

1973年根室半島沖地震と2003年十勝沖地震の余震域を比較すると, その広がりほぼ同程度である(図2)。すなわち, 余震活動から推定される1973年根室半島沖地震の規模は2003年十勝沖地震と同等であるといえる。「千島海溝沿いの地震活動の長期評価」により推定されている根室沖の想定震源域(図2中のピンク色の楕円)は, この余震域と比較するとひとまわり小さく, 根室沖の想定震源域が過小評価されている可能性がある。なお, 根室半島沖地震と十勝沖地震の余震域は重ならず明瞭に分かれているが, その間に新たな海溝型の地震を想定するほどの隙間はない。

また, 根室半島沖地震と十勝沖地震の $M4.0$ 以上の余震発生数は, 本震発生後2週間で比較すると約160個とほぼ同程度であるが, 根室半島沖地震では $M4.0$ の地震すべてが決定できていないことから, 余震活動はむしろ根室半島沖地震のほうが活発であったと言える(図1および, 図3)。

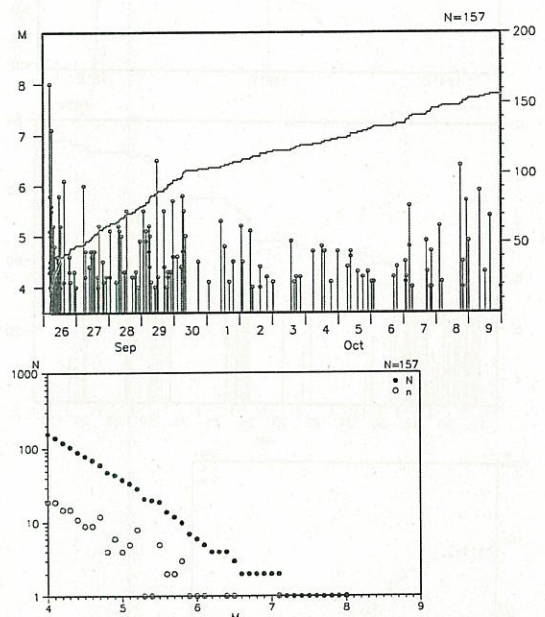


図3. 2003年十勝沖地震の地震活動経過図, 回数積算図(上図)および $M$ 度数分布図(下図)  
(2003年9月26日~10月9日,  $M \geq 4.0$ )